

会議録（１）

会議の名称	平成30年度 第2回飯能市地域福祉審議会 及び飯能市地域福祉活動計画推進委員会
開催日時	平成30年12月18日（火） 開会 午後6時30分 閉会 午後8時30分
開催場所	飯能市総合福祉センター 3階 大会議室
議長氏名	田中 英樹
出席委員	田中 英樹 角田 健一 向澤 雅啓 橋本 誠一 高橋 純子 窪寺 朋子 清野 剛義 大野 泰規 大野 康 杉田 和美 小澤 靖子 加藤 守 濱中 政雄 豊嶋 康雄 野村 五郎
欠席委員	なし
説明者の職氏名	健康福祉部長兼福祉事務所長 島田 茂 地域・生活福祉課長 土屋 浩美 地域・生活福祉課主幹 須田 あゆみ 飯能市社会福祉協議会常務理事兼事務局長 大野 悟 飯能市社会福祉協議会主幹 野田 剛
傍聴者の数	なし
会議次第	別紙のとおり
配布資料	別紙のとおり
事務局職員職氏名	健康福祉部長兼福祉事務所長 島田 茂 地域・生活福祉課長 土屋 浩美 地域・生活福祉課主幹 須田 あゆみ 地域・生活福祉課主任 松本 正尚 飯能市社会福祉協議会常務理事兼事務局長 大野 悟 飯能市社会福祉協議会主幹 野田 剛 飯能市社会福祉協議会主任 梅木 裕也

会議録（２）

議事録の概要〈経過〉・決定事項

議事

- （１）第３次はんのうふくしの森プランについて
配布資料について、事務局が説明した。

会議録（3）

発言者	発言内容
会長	<p>それでは、ただいま市長から諮問がございましたが、「(1) 第3次はんのうふくしの森プランについて」を議題といたしますので、事務局から説明をお願いします。</p>
地域・生活福祉課主幹	<p>(資料 別紙①を説明)</p>
社会福祉協議会主幹	<p>(資料 別紙②を説明)</p>
会長	<p>説明は以上です。皆様からご意見やご質問はございますか。</p>
委員	<p>各福祉分野における上位計画としての位置づけなので、周知に力を入れていただくとともに、他の計画との関連がイメージできると、より身近な計画に感じることができるのではないかと思います。</p>
委員	<p>基本目標2【交】に、交通だけでなく居場所づくりとしての意味合いを入れたところが非常に良いと思います。</p> <p>8月に自治会や民生委員、他の地域包括支援センター、社会福祉協議会、市と協力して、地域包括支援センターで多世代交流会を開催したところ、約40名の方に参加していただきました。</p> <p>その際に実施したアンケートでは、このような交流の機会を毎月開催して欲しいという意見が多く寄せられ、居場所の必要性を改めて認識しました。</p> <p>また、次回の多世代交流会を12月に企画したところ、現段階で前回を超える申し込みをいただいている状況で、居場所を探している方が多くいると感じています。是非、他の地域にも広がってほしいと思います。</p>
委員	<p>基本目標2【交】に、交通だけでなく交流ができる居場所づくりという意味を含めたのは私も素晴らしいと思いました。</p> <p>私の住んでいる地域で、子どもからお年寄りまで色々な方が集う交流サロンを月1回開催しています。スタッフも含めて100名近くの方が集まりますが、参加してみると皆さんがすごく楽しみにしているのを感じます。</p>

しかし、会場の確保や会場までの移動手段などの課題もあり、スタッフの方々の準備のご負担が大きいのも事実です。

今の時代、家族の人数が少なく、孤立している方も多いと思うので、このように交流できる居場所は重要です。今後も定着していけると良いと感じています。

委員

基本目標2【交】と基本目標3【支】については、第2次プランを踏まえ、子育てサークルの育成や世代を超えた交流を含め、子育てに悩む母親などが気軽に行ける交流の場づくりに重点を置いているところが良いと思います。

子育て中の母親同士で、子どもを預け合うサークルなどの活動を展開している中で、非営利のマーケットを開催しています。市内の母親達が主体となって運営していて、収益は寄付にあてています。

今後も地域として支え合い、また広い目で市全体を見ながら活動していけたら良いと思います。

委員

地域で支え合う人の育成が重点目標となっておりますが、これは急務であると感じています。市や社会福祉協議会が開催している様々な講演会などを通じて、もっと市民の人に「こういうことで困っている人がいる」という現状を知っていただければ、ふくしの森について真剣に考えてくれるのではないかと思います。

施策を進める上で、民生委員児童委員協議会や自治会との連携は非常に重要になってくると思います。

全体的には、地域福祉に携わる人をどんどん増やして、はんのうふくしの森プランを周知し、地域で支え合う人の育成を重点的に進めていただきたいと思います。

委員

学校は地域の皆様に支えられていますので、地域福祉に関して学校としてできることはしていきたいと思います。

バスなどの地域の交通網がなくなってしまうことが心配ですので、地域主体の交通手段を確保する必要性を感じています。

委員

精神科医療では、国がこれまでの入院を主体としたものから、地域の生活に移行できるよう、障害者を地域で支えていくための法改正を行いました。

先日、就労継続支援事業所を始めた企業が、精神科医療について知るために病院へ見学に来られたことがありました。その際に、はんのうふくしの森プランについて話したところ、興味を示されました。これからは企業にも関心を持っていただくことが大切だと感じました。

また、私は埼玉県の自殺対策委員をさせていただいていますが、地域の方が認知症なのか精神疾患なのかわからないために精神科医療にかかれないう事例がありました。飯能市では、多職種連携のワールドカフェにより顔の見える関係をつくり、地域課題を共有しているという話をしたら驚かれました。とても素晴らしい取組だと思います。

委員

なぐり広場は、地域福祉推進組織としては市内でも早くから活動を始めましたが、地域でもまだまだ「なぐり広場」の名称を知らない人もいます。市全体の認知度はもっと低いのではないかと思います。

情報を届けたい人にどう届けたらいいか、日々活動している中で仲間と悩みを打ち明け合いながら、答えを探し続けています。

はんのうふくしの森プランを、届けたい人に届けられるようにしていきたいと思います。

委員

加治東地区は、人口は多いのですが居場所の確保が課題であり、空き家を居場所として利用できないかとよく話題になります。

小人数でも集まれるよう、家の庭にテントを張って、通りかかる人の居場所づくりをしているところがあり、大変良いアイデアだと思いましたが、屋根がないことが課題になっているようです。

情報を届けたいところに届けたいのですが、民生委員が把握している個人情報については難しいようです。ふくしの森サポーターが、つなぎ役になっていただけたらいいと思いました。

委員

新しい取組であるふくしの森サポーターの育成については、地域福祉に携わる者として期待しています。今後、地域のリーダーとなる人材が育つと良いと思います。

地域で相談をする際に、コミュニティソーシャルワーカーと民生委員の違いがよくわからず、どちらに相談したら良いのかわからない人が多いと思います。コミュニティソーシャルワーカーと民生委員が連絡を取り合って課題等を共有できるような仕組みになっているのでしょうか。

重点目標に「一人ひとりの相談を受けとめ協働で支える体制づくり」が掲げられ、地域と社会福祉協議会と市が協働で取り組むとのことですが、個人情報のため地域の人に関われない事例もあると思います。

コミュニティソーシャルワーカーの相談業務について、ふくしの森ステーションで相談を待つのか、それとも積極的に地域に出て家庭を訪問することもあるのでしょうか。

委員

昨年度、第2次プランの基本目標【知】【交】【支】【安】を堅持した上で、プランを発展させてほしいと当審議会から提言させていただきましたところ、第3次プランでは圏域が8圏域から13圏域となり、山間地域だけでなく市街地も重点に組み入れられたことは、今後ふくしの森を充実させるためには重要だと思いました。

自分の地域の活動は、他の地域と比べてどこが強くどこが弱いのかを知り、その上でコミュニティソーシャルワーカーにサポートをしてもらえると進展できると思います。今後は、PDCAの実行から評価のところを重点的に検討していきたいと思います。

委員

はんのうふくしの森プランは、第1次から第2次、第3次と内容が進み、素晴らしくなっています。プランが実現できれば素晴らしいまちになると思います。

自治会連合会から推薦されていますので、支部長会などでははんのうふくしの森プランを周知しているつもりですが、まだまだ市民への周知が足りていないと感じています。

ふくしの森地区別懇談会には大勢の方が参加され、はんのうふくしの森プランを知っていただく機会となりましたが、さらに市全体に行き渡っていくことが必要です。

第3次プランを目に見える形で周知し、認知度が高まるとともに、隣近所の助け合いが市民全体に行き渡れば、素晴らしい飯能市になると思います。

委員

第3次プランに掲げられた4つの重点目標が実現したら本当に良いと思います。特に【交】については、交通だけでなく、交流できる居場所、みんなが安心できる居場所を作ろうというのが良いと思いました。

はんのうふくしの森プランをどのように発信していくか、重点的に取り組んでいければ良いと思います。

ボランティアの方々の関わりをどうしたらよいか、ボランティアセンターの課題でもありますので、ボランティア交流会の中で、はんのうふくしの森プランに合わせた取組を考えていきたいと思っています。

副会長

先程、委員からご質問があった件ですが、コミュニティソーシャルワーカーは地域福祉に専門的に携わる社会福祉協議会の職員です。日頃から民生委員と連携し、課題等を共有していると思います。今後、コミュニティソーシャルワーカーがさらに積極的に地域に出ていけるような環境の整備も必要と感じています。

会長

昨年度、当審議会で提出した第3次プラン策定のための提言書が活かされた素案になったと思います。計画策定委員会においても、時代の変化を取り込みながら、当審議会からいただいた提言書を踏まえて、第3次プランの検討が行われました。

第3次プランにおいて、「飯能市の地域福祉」イコール「ふくしの森」としました。森づくりと同様に、育てる人が育てているつもりでも、実は自分が育てられているという、お互いに影響し合っていくところがふくしの森の良いところです。その結果、全ての人が「ふだんのくらしのしあわせ」を感じることでできる飯能市へと進んで行くと思います。

人材育成は、これまでも進めてきた小・中学校の擬似体験中心の福祉教育から、現在は認知症サポーター養成講座や地域福祉に関するプログラムが各学校で展開されるようになりました。これからの時代を担う子ども達を育てる取組はとても大事だと思います。

委員の皆様、活発なご意見をいただきありがとうございました。

第3次プランでは、圏域を13圏域に発展させようとしています。地域福祉推進組織も現在は7組織となりましたが、中山間地域が殆どです。もう少し細かく分けてふくしの森を推進していくため、13圏域としました。

新しい取組として、ふくしの森サポーターを第3次プランに入れました。市民の数%が変わるとまちは大きく変わります。はんのうふくしの森プラン推進市民会議と社会福祉協議会が担うふくしの森サポーターの育成が重要になると思います。

コミュニティソーシャルワーカーは、数も質も大事です。財政事情もあると思いますが、全地域に専任配置を進めて欲しいです。そして、社会福祉士等の国家資格などの専門性を身に付けた人がコミュニティソーシャルワーカーとなり、地域支援に携わることがとても重要です。

また、誰でも安心して交流できる居場所が必要だと感じています。工夫すれば色々な居場所ができると思いますので、地域に合った取組が大事になると感じています。

本日のご意見などをこの素案に反映しますので、修正は一任していただきたいと思いますがいかがでしょうか。

(異議なし)

では、本日のご意見を踏まえてとりまとめをさせていただきます。

本日の議事は以上になりますので、これもちまして議長の任を

解かせていただきます。

委員の皆様、ご協力ありがとうございました。

議事の内容・概要を記載し、その相違ないことを証するためここに署名します。

平成 年 月 日

議長の署名
